



がんに対する新規PD-1免疫チェックポイント阻害剤併用療法の開発と実用化

国立大学法人長崎大学 先端創薬イノベーションセンター 田中義正

対象疾患：がん

カテゴリー：治療薬（新規PD-1免疫チェックポイント阻害剤併用療法）

目標：奏効率が既存のPD-1免疫チェックポイント療法より高く、副作用の少ない新規がん免疫療法を開発し、社会実装する。

背景：図1に示すように、PD-1免疫チェックポイント阻害剤を用いた肺がん治療成績は、化学療法（抗がん剤）より優れているが、その効果はまだまだ改善の余地がある。本事業開発においては、1年後の治療開発目標ラインを80%以上とする。

競合優位性：図2に示すように、大腸がん治療マウスモデルにおいて、免疫チェックポイント阻害剤単独療法と比較して、本事業開発において用いるPD-1免疫チェックポイント阻害剤併用療法は、奏効率において大きな優位性がある。さらに大腸がんモデル以外でも、種々のがん種で同様の著明な治療効果が確認されている。また、本事業で用いられるPD-1免疫チェックポイント阻害剤併用療法に関しては、知財の申請を日本国だけでなく外国でも行っており、知財面における優位性がある。さらに、本治療法は、副作用が極めて小さいことから、今後のがん治療における大きな転換点となり得る。

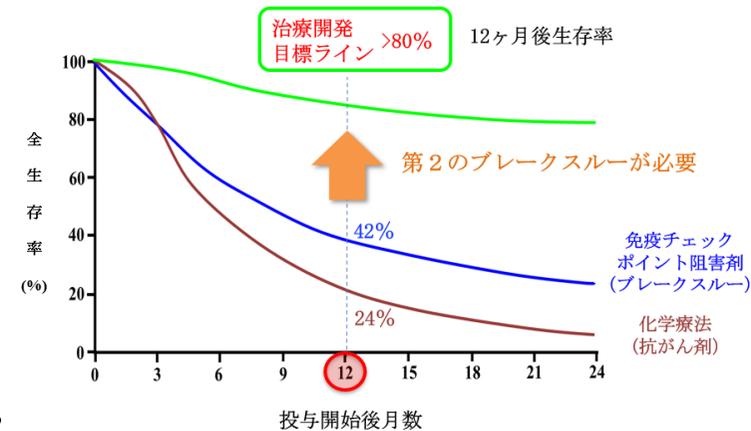


図1. 肺がん治療成績

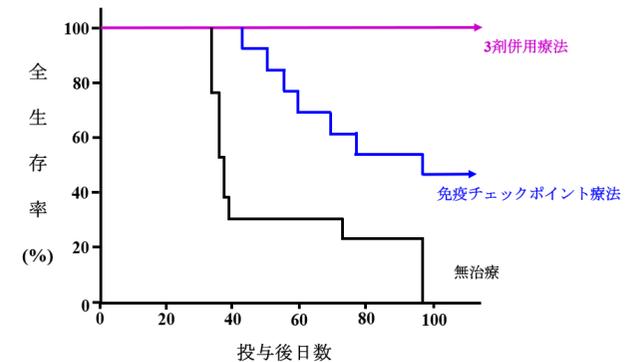


図2. 大腸がん治療マウスモデル